

在京都グアテマラ共和国名誉領事就任並びに 在京都グアテマラ共和国名誉領事館開設について

1947年に創立された本学には現在外国語学部9学科が設置されている。スペイン語学科（当時はイスパニア語学科）は1963年に英米語学科に次いで2番目に開設された長い歴史を持つ。本学は創立以来、国際理解に関する教育に尽力し、50年以上に渡りスペイン・ラテンアメリカ文化を日本に伝え、グアテマラのように遠く離れた国の人々と日本人の心の距離を近づける活動に率先して力を注いできた。本学からは森田嘉一理事長、スペイン語学科教員などがグアテマラ共和国を訪問、1991年から94年にかけては故大井邦明教授が、グアテマラ共和国の古代遺跡「カミナルフユ」の発掘調査を実施している。この調査には南博史本学教授（当時は京都文化博物館勤務）が考古学部門の顧問として参加している。また本学は、1988年設立の京都ブラジル文化協会、1996年設立の京都メキシコ文化協会を母体とした京都ラテンアメリカ文化協会の事務局を配しており、京都市民のラテンアメリカに対する興味や交流をけん引して来た。2001年にはグアテマラ共和国大統領アルフォンソ・ポルティエーヨ閣下が本学を訪問され、本学の京都ラテンアメリカ研究所の設立式にご臨席され、2003年にはファン・フランシスコ・レイエス同国副大統領が卒業式に参列するなどグアテマラ共和国との交流は密なものがある。

名誉領事を拝命した本学法人本部長である横山卓哉は、ラテンアメリカへの造詣も深く、国際理解や国際協力の重要性を唱え、本学学生の同地域との相互理解促進のため、日夜尽力している。併せて、京都ラテンアメリカ文化協会の副会長を務め、2013年にはグアテマラ共和国を訪問し、同国外務副大臣と会談するなど密接な交流を重ね、信頼関係を築いてきた。また、現在も先住民族の言語や文化が多岐にわたり存在し、高度な技術や天文学的知識を有していたとされるマヤ文明発祥の地である当地への関心も、相当に大きなものがある。

さらに、日本の古都であるのみならず、文化的な中心地として世界に知られている京都に名誉領事館を開設することには大きな意味があると同時に、在京都グアテマラ共和国名誉領事館が本学に開設されたことは、本学とグアテマラ共和国との友好関係にまた新たな進展をもたらすものである。さらには、京都とグアテマラの文化面、教育・研究面における協力関係に新たな刺激を与える第一歩となり、この交流の発展が、両地域、両国の経済などさまざまな分野での潜在能力を開花させる一助となることを願っている。本学に開設されている名誉領事館は、今回開設の在京都グアテマラ共和国名誉領事館が加わり、在京都メキシコ合衆国名誉領事館に在京都ニカラグア共和国名誉総領事館、計3カ国となり、一大学に3カ国の名誉領事館が開設されているのは本学のみである。

在京都グアテマラ共和国名誉領事
学校法人 京都外国語大学
法人本部長
横山卓哉

在京都グアテマラ共和国名誉領事館
615-8558
京都市右京区西院笠目町 6
京都外国語大学内
TEL/FAX 075-322-6776